

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 令和2年10月30日(金)
午前9時59分から午前11時44分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席委員 (委員長) 関戸郁文 (副委員長) 谷平敬子
(委員) 片岡健一郎、水野忠三、宮川隆、堀 巖、榊谷規子
- 5 欠席委員 なし
- 6 説明員 秘書企画課長 伊藤新治、同主幹 小出健二
- 7 事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同主事 丹羽亮二
- 8 委員長挨拶

関戸委員長：岩倉駅東口の賑わいについて、11月17日に商工会が議長のところへ陳情に訪れるので、同席して商工会の意見を聞いてみようと考えている。

9 協議事項

(1) 令和2年度政策提言について

関戸委員長：今日、秘書企画課長と担当の方に来ていただいたので、ふれ愛タクシーあるいは市内公共交通機関のあり方の2つのテーマについて聞きたいことがあれば発言を。

宮川委員：運営主体の会社の社長と総務担当と、労務関係で組合の委員長と少し話をしてきた。その中で、稲沢市が岩倉市を手本として、事業を新規で行いたいという申し出があったそうだ。稲沢市としては、目的地から目的地への乗降もやりたいという申し出だったそうだが、タクシー会社の考え方としては、予約をして目的地が明確になっていれば、時間は大体予測できる。したがって、余剰車を確保する必要がないが、乗降を1回挟むことでかかる時間が分からなくなり、専用車両、乗務員を用意しなければならないので、稲沢市には無理だと回答したとのこと。また、コロナの影響で正社員以外は休んでいる状況。車はあるが需要がないため、ドライバーは休ませている。今後、需要がどれくらい増える予測がつかない状況の中で、新規の人間を雇う考えはなく、第1段階は今休んでいた非正規のドライバーに戻ってきていただくという考え。江南市は一律料金だそうで、岩倉市は一定料金だがそれに対して補助をしているが、江南市は、例えばA地点からB地点でもA地点からC地点でも料金は同じ。遠くなればなるほど実入りが減り拘束時間が増えてもうけにならない。今の岩倉市がやっているやり方が事業者としてはありがたいという話だった。

堀委員：江南市のいこまいCAR事業に関して、タクシー会社の利益を確保するために、市から補助を受けているのでは。

宮川委員：（音声不明瞭）

堀委員：事務局はその情報は聞いているか。

秘書企画課主幹：（音声不明瞭）

宮川委員：（音声不明瞭）

（音声欠落）

堀委員：そもそもの出発点は自動運転の話だった。市民からは、駅ロータリーでの乗降を認めてほしいという要望があり、市も把握している。小牧市民病院など市外へ出たいという要望もデマンド交通の頃からあり、困っている人を助けることが行政の役割なので、個人的に言うとはデマンド交通を始めた時から、生涯学習センターで降りて多少歩くのでは本当に困っている人の助けにはならないと考えていた。その点について執行機関がどう考えるかということが1点。デマンド交通からふれ愛タクシーに切り替えたとしても解決できない、そもそもの問題は公共施設が点在していて、駐車場も狭くて中々行けないという点。公共施設に行くために往復600円、800円かけて行くことは現実的でないという話を協議会の中で議論してきた。その点について、執行機関はどのように考えているのか。

（音声欠落）

片岡委員：江南市は駅周辺での乗降も出来る。岩倉市でできない理由は。

秘書企画課主幹：江南市は、名鉄バスの赤字補填をしているため。

（音声欠落）

関戸委員長：駅ロータリーで乗降してもバスの乗降客が変わらないというデータを取ろうという計画はあるか。

（暫時休憩）

堀委員：デマンド交通の時に岩倉駅から市内のバス停へ行く人のデータを若干見た記憶がある。以前の会議で出た話は、職員がバスに乗って、市民がどこで降りるのか実際に追跡調査できないかという話をしたがそういうことはできないか。

（暫時休憩）

堀委員：多分、少ないと思う。

（音声欠落）

宮川委員：一番危惧しているのは、団地と駅東間の数字。

片岡委員：感覚的には、それほど減らないと思う。乗降エリア制限を解除するとどれくらい減るのか人数を把握して試算する必要がある。それを補填したとしていくらかかるかを知るためにも必要。何千万円もかからないと思う。

宮川委員：（音声不明瞭）

（音声欠落）

宮川委員：岩倉に常駐しているタクシーは、一宮、岩倉、小牧のエリアで人を乗せることができる。江南、犬山、各務原エリアも同じ。エリア外から乗せることができない。ふれ愛タクシーで市外にも行けるという制度にしようとした際に、江南にお客さんが行って、江南から帰るということであれば、江南から配車して、岩倉まで戻すという構図になる。そうすると、その営業所の制度上可能かどうか、社内的と言えど社内的だが、請け負っているのが名鉄西部交通だけではないので、他のところとの協調をどうするのかということも含めて調整が必要。単に外に行くだけということであれば岩倉単独で考えればいいが、帰りを考えると複雑な構図にならざるを得ない。どうクリアするか考えなくてはならない。

堀委員：小牧市民病院に行きたいニーズが最も高いとして、ふれ愛タクシーが複数の事業者との契約になっているということを踏まえた、宮川委員の意見をどうクリアするということを考えたことはあるか。

秘書企画課主幹：小牧市民病院に行くための路線バスがある中で、そこに向けてのふれ愛タクシーを認めることのハードルが高い。元々支えている交通インフラを無視して、直接乗り入れる。それに対して市が補填をしていくということが大きな課題だと思う。

関戸委員長：最初は市内の公共交通機関のあり方というテーマでスタートして、テーマがふれ愛タクシーへと狭まったが、最初は公共交通機関のあり方について、委員会の議論の中では自動運転で北島から走らせてはいいのではという意見が出ているが、今の市の考えとして、自動運転や市内全体の交通網についての考えがもしあれば教えていただきたい。

秘書企画課主幹：自動運転は先々を見れば大事な話だが、現在それを導入することでより安価になるとかより安全になるとか、バスの運転手が不足しているとかそういう状況に今なっていない。バスの運転手の働き口がなくなってしまうことのほうが困難な課題であって、現時点で自動運転を前提にした公共交通を導入することは、全国に先駆けてやることに、さらに課題が増えてでも、やる意味はあるのかも知れないが、それよりは市内全体をどうカバーするかということを考えていて、バスやタクシーよりも安全で安価な交通手段になった時には考えていくが、現状は道路交通法の規制がある中で公道を走らせても、乗務する人は必要。

(音声欠落)

堀委員：だからこそ、駅を中心部の活性化、例えば飲み屋でお酒を飲んだら車を運転できないから、そういったところとセットで考えないと。自動運転の議論の中では、目的がないと乗らないよねという話。もう一点、そのことも含めてタクシーチケットの話で、85歳以上の利用目的と図書館など公共施設のニー

ズは違うと思う。そういった点で、ふれ愛タクシーの金額であるとか、利用しやすい、本来は誰もが乗れるのが公共交通であり、ただ岩倉市は公共交通が充実している街なので、事業者を差し置いて無限大に充実させることはできない現実も踏まえつつ、何か上手く外へ出ていけるような提案をしようというのが本委員会の使命と考える。

(音声欠落)

堀委員：今後の岩倉市には賑わいを求めない都市像を描いているのか。桜通線界限に活気ある賑わいをつくっていくことはないのか。

(音声欠落)

堀委員：確かに小売店は難しいのはわかるが、飲食店で、岩倉で（乗り換えのために）降りた人が食べて帰る、ターゲットはある。有名店に来てもらう営業活動をしてもいいと思うが。

(音声欠落)

水野委員：駅東が賑わうのはいいと思うが、アピタ等と客を奪いあうことになる、今でも商業施設ですら賑わっていないという状況の中で、お店で人を寄せるのは難しいのではないか。また、逆にアピタが撤退を検討する事態になると逆効果。ともに栄えるというのは可能か。

(音声欠落)

片岡委員：駅東にチェーン店が進出しているのを見ると、絶対に調査してやっているとと思うので、行政が感じている以上に魅力があるということだと思う。駅東の賑わい創出とか活力の創出という言葉がよく出るが、何をイメージしているのか。店を増やすこととは違う活力なのかなと話を聞いていると感ずるのだが。

(音声欠落)

堀委員：都市整備課から示された桜通線の土地利用図をイメージすると、高層マンションが建って、住んでいる人が増えて、1階に店舗が入るまちを想像したのだが、10年では難しい。若者が遊べる場所がないので、公共施設を活用してそれをどう確保していくかということと、居住している人達に、岩倉市の将来の夢のある図を見せたときに、じゃあもう少し静かなところに移り住んでもいいよと、そのための補助もあつていいと思う。

(音声欠落)

関戸委員長：個人的な意見だが、地主さんで集まる駅東の構想協議会のようなものがあつて、その中で高層マンションが両脇に立っているほうが岩倉に合っているような気がした。1階に店というイメージではない。住居だけ。駅東に住んでいる方は静かな住宅街を求めているのではないかというイメージを持った。時間がないので次の話題だが、オンライン市民相談窓口設置事業につい

て。私はコールセンターの事業を前職でやっていたが、変な電話がたくさんかってくるので、スクリーニングをして、誰かが聞いて、実際に必要な人のところに、担当課に回す仕組みじゃないと成り立たないと思っている。今現在、電話を受けた時に職員の業務が増えているとかどうでもいい内容の電話、メールが多くある等の状況はあるのか、どういうふうに考えているのか。

(音声欠落)

水野委員：高齢者や身体の不自由な方等で、生活保護の相談などで、窓口に出向いてくれと言われた。電話だけでは困ると言われたと聞いている。最終的にはタクシーには乗れるでしょうという、無理をして直接出向く負担を軽減できないか。また、一般相談だけでなく、法律や専門相談の場合に音声だけで説明するのが難しい、図や絵を用いたほうが分かりやすいのではないかと思う。全部オンラインではなく、選択の幅を広げるという趣旨で提案した。

秘書企画課主幹：相談する方にも環境の整備が必要。顔が見えない方が相談しやすい方もおり、現状オンラインにこだわっていく必要がない。色々な自治体で実証実験をしているが、いたずらが多かったり、返信がないなどの課題も聞いている。手続きに関しては、オンライン化を進める。ただ、面談することで見分けていた、市が助けなくてはいけない人を見落としてしまいかねない。(音声不明瞭)

水野委員：相談もオンラインでして、オンラインで手続きが完結するのもいいと思う。オンラインの定義にもよるが、音声だけ、文章だけでは不安だという方がいると思うので顔をみて話したいという場合、しかし市役所に出向くのは大変な場合に、オンラインで顔を見て話したいというニーズが今後出てくると思う。補助金がつくようになる可能性も高いと思うので、検討してほしい。

(執行機関退席)

関戸委員長：政策提言について、調査研究を続けるということで、政策提言までは今年度中にはできないのではないかと思うが。

堀委員：放置自転車対策のところ、駐車場内に長期間放置してある自転車を撤去することは現在の条例ではカバーしきれていないので、もう少し(議論を)深めてはどうか。

片岡委員：いつから置いてあるんだろうという自転車は確かにある。撤去できるような内容に変えたらどうかと思った。

関戸委員長：それを調査研究して政策提言に持っていこうか。

片岡委員：駐車場内にあるとしても、一定期間おいてあるようなものに関しては処分できるようにできないか。

関戸委員長：駅東と公共交通に関する提言は今後どうしていくのか。3月までに解決策を示すのは難しい。来年に持ち越すのか、どう取り扱うか。

水野委員：駅東に関しては、地権者の意向が変わらないという前提で考えるしかない。その上で政策提言が必要か意見を聞きたい。

堀委員：桜通線の街路の整備については、歩行者、集い、賑わいをイメージした整備をしないと、二重投資になる可能性があるので、そういう提言ならできると思うが、今年度中は難しいだろう。

関戸委員長：提言にこだわることなく、報告書にまとめて議長に提出しようかと思っている。

水野委員：委員長の言うとおりで良いのでは。

関戸委員長：来週からのスケジュールは、11月6日（金）午前10時、13日午前10時、18日（水）午後1時10分。

（2）その他 特になし

10 その他

特になし